

iPCL
IMPLANTABLE
PHAKIC Contact Lens

アイピーシーエル®手術を受ける方へ

NEW 眼内コンタクトレンズ

アイピーシーエル®



眼のしくみ

眼の構造は、カメラに似ています。

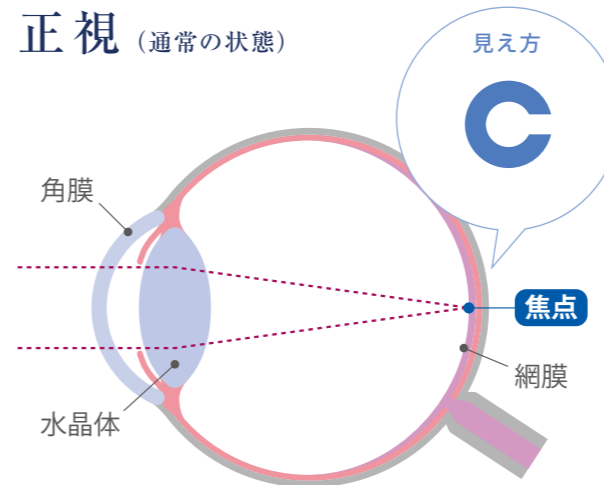
眼に入ってくる光は「角膜」と「水晶体」(レンズ)で屈折し、「網膜」(フィルム)で像を結びます。

網膜上で焦点が合わない状態を「屈折異常」といい、

焦点のずれ方により「近視」・「遠視」・「乱視」に分類されます。

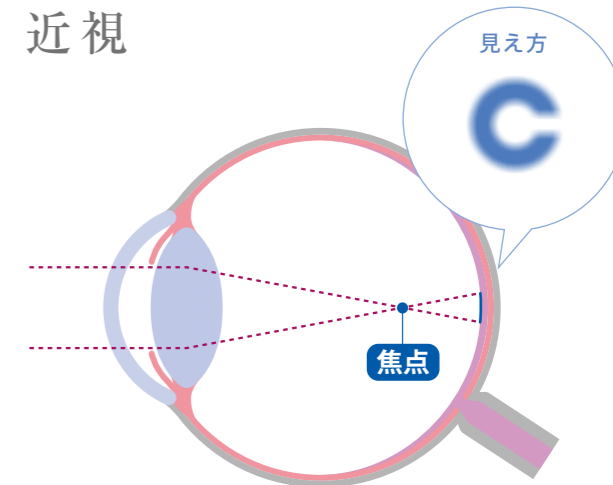


正視 (通常の状態)



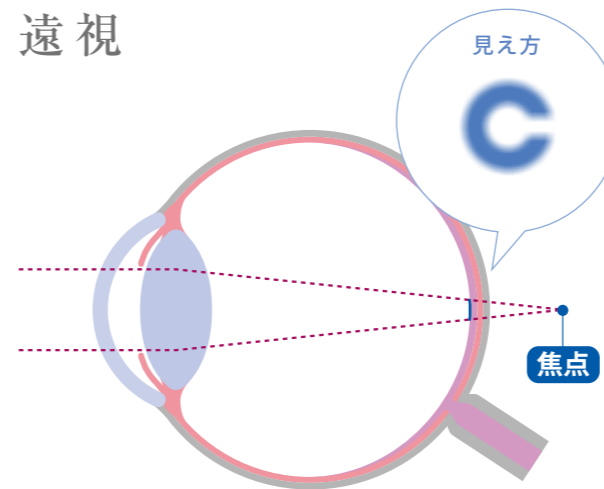
光が正確に網膜上で焦点を結び、
ものがはっきり見える理想的な状態

近視



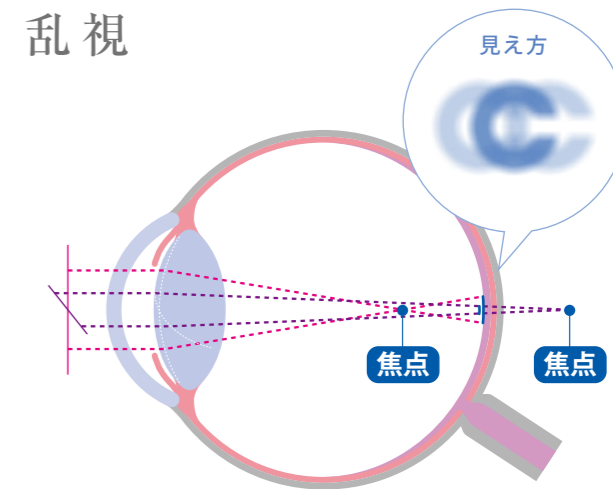
光が網膜の手前で焦点を結び、
遠くのものぼやけて見える状態

遠視



光が網膜より後ろで焦点を結び、
近くのものぼやけて見える状態

乱視



光が複数の場所に焦点を結び、
像がにじんで見える状態

くっせつきょうせい 屈折矯正手術とは

「屈折異常」を矯正し、視力を改善するための眼科手術です。

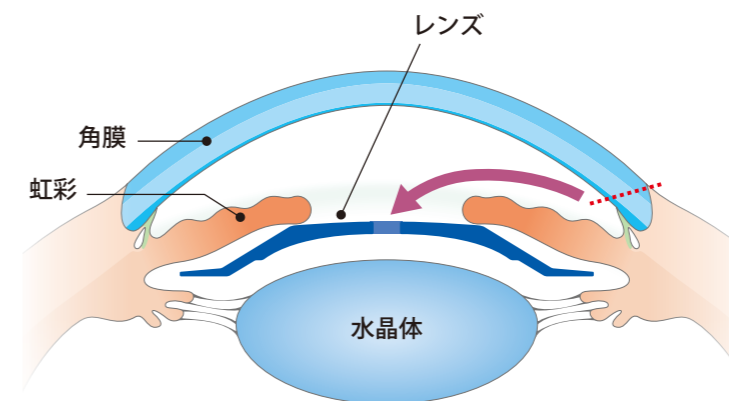
眼鏡やコンタクトレンズを使用しない裸眼の状態でも良好な視力を得ることを目的としています。

手術にはいくつかの種類があり、それぞれにメリット・デメリット、適応条件などがあるため、

眼の状態やライフスタイルに応じた選択が重要です。

フェイキック IOL 手術¹⁾

(有水晶体眼内レンズ)



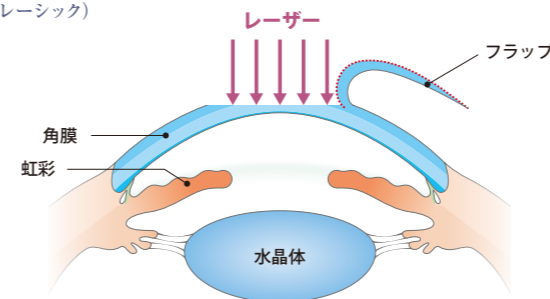
約3mmの小さな傷口から、柔らかいレンズを角膜の内側(虹彩と水晶体の間が一般的)に挿入して光の屈折を矯正する手術です。

特徴

- ・レンズは術後いつでも取り出すことができる
- ・手術時間は数分程度
- ・術後の見え方の質・満足度が高いとされている

LASIK手術¹⁾

(レーシック)

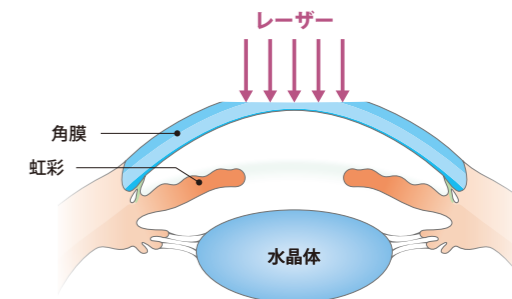


角膜表面に薄い円形状のふた(フラップ)を作り、めくった下の角膜の一部をレーザーで削り、光の屈折を調整する手術です。

特徴

- ・フラップを戻すため、角膜が元の状態に回復しやすい
- ・手術時間は数分程度
- ・視力は比較的早く改善し、痛みも少ないとされている

PRK手術²⁾



レーザーによって角膜表面を一部剝離し、現れた角膜の一部をレーザーで削り、光の屈折を調整する手術です。

特徴

- ・近視が強く角膜が薄い場合に勧められることがある
- ・視力回復には時間がかかるとされている
- ・術後しばらく、保護用コンタクトレンズの装用が必要

1) 日本眼科学会Webサイト 一般の皆さまへ>目の病気>治療法一覧 (https://www.nichigan.or.jp/public/disease/#TabModule890_958)

2) 日本白内障屈折矯正手術学会Webサイト 一般の方へ>屈折矯正手術について (<http://www.jsccs.org/index/page/id/36>)

※写真やイラストはイメージです。
※詳しくは担当医師にご相談ください。

アイピーシーエル[®]*手術とは

*アイピーシーエル (Implantable Phakic Contact Lens: IPCL)

眼内の「虹彩」と「水晶体」の間に「有水晶体後房レンズ」を挿入し、

網膜上でピントが合うよう屈折を調整する視力矯正手術です。

角膜を少し切開し、その切開創からレンズを挿入します。

短時間で手術が完了するため、

手術当日にお帰りいただくことが可能です。

*アイピーシーエルは18歳～45歳が対象となります。

瞳孔を広げる



瞳孔が広がる目薬をさし、点眼麻酔も行います。
角膜の縁を2.8mm以上切開します。

眼内にレンズを挿入



切開した箇所から
レンズを眼の中に挿入します。

眼内にレンズを設置



レンズを虹彩後面と水晶体の間に
設置します。

手術終了



瞳孔を小さくする目薬をさして、
手術は終了です。

アイピーシーエル[®]手術の流れ

手術は日帰りで行われますが、

手術前・当日・術後にはそれぞれ必要な検査や注意事項があります。

右ページにて、一般的な流れをご紹介します。

詳細は担当医師の指示に従ってください。

手術前：適応検査を受けていただき、手術が可能か判断します。

主な適応検査

屈折検査

近視・遠視・乱視の度数を確認

眼圧検査

緑内障などの疾患の有無を確認するため、
眼球内部の圧力を測定

角膜内皮細胞検査

角膜内皮細胞の大きさや数、形状を解析

角膜厚・角膜径検査

角膜の厚さや直径を測定し、角膜の状態を評価

前房深度検査

角膜後面から水晶体前面までの距離を測定し、
安全にレンズを挿入できるスペースがあるか確認

角膜形状解析

角膜の形状を分析し、不正乱視や円錐角膜を診断

※その他、担当医師の判断で必要とされた検査については、医師の指示に従って受けます。

手術当日～翌日：眼に異常がないか、手術後と翌日に検査を行います。

注意事項

- ・傷口がふさがっていないため、安静にして過ごし、眼は触ったりこすったりしないでください。
- ・眼の「充血」「かすみ」「違和感」が生じることがありますが、眼の切開部分の治癒が進むことで、症状は自然と改善していきます。

手術後：手術後1週間、1ヵ月、3ヵ月、6ヵ月、1年など、眼に異常がないか定期的な検査を行います。

注意事項

- ・デスクワークは翌日から可能ですが、汗をかくような重労働は術後3～4日は控えてください。
- ・ジョギングなどは術後1週間から可能ですが、水泳や激しい運動は術後1ヵ月は控えてください。
- ・手術当日のシャワー・入浴は控えてください。洗顔・洗髪も手術翌々日頃まで控えてください。
- ・その他、自動車の運転、飲酒、喫煙、カラーコンタクト、アイメイクなど注意すべき事項がございますので、主治医にご確認ください。

アイピーシーエル®手術後の見え方

アイピーシーエル®の術後は、朝目覚めた時から、夜ベッドで目を閉じる瞬間まで、眼鏡やコンタクトレンズに頼る必要のない生活を得られることが期待できます。

アイピーシーエル®手術は、視力に多くのメリットがあると同時に、すべての手術と同様に、合併症など一定のリスクを伴い

術後1週間くらいは、炎症などの影響で視力が変動することがあります。

また、暗い場所や夜間に光を見た際に、眩しさを感じるがあります。

術後の眼の状態を確認するために、主治医の指示に従って

定期的な眼科検診を受けることが大切です。

Q & A

Q. アイピーシーエル®手術中の痛みは？

A. 点眼麻酔を使用するため、痛みは少ないです。

Q. アイピーシーエル®手術の安全性は？

A. 日本国内では、2025年4月に厚生労働省から医療機器として認可を受け、安全性も確認され、専門の講習を受けて認定された眼科専門医のみが手術を行います。ヨーロッパでもCEマーク*を取得し、世界32カ国で認可を受けています。

Q. アイピーシーエル®手術の日本国内での試験は？

A. 4施設・200眼以上を対象とした臨床試験で、有効性と安全性が確認されました。

Q. 眼内コンタクトレンズに紫外線カット機能はありますか？

A. 一般的な眼内コンタクトレンズは、コンタクトレンズにも広く用いられている紫外線吸収剤を含んだ素材でできています。

Q. 日々のメンテナンスは？

A. 眼鏡やコンタクトレンズのように、日常的な使用で汚れたりくもったりせず、日々のメンテナンスは不要です。

*アイピーシーエル®手術を受ける方へ配布をお願いします。



株式会社アットワーキング